

『食・農・森』(食べる・作る・育む)～東大生態調和農学機構から/進行表 (2017年5月2日版)

2017年5月9日(火)13時5分～13時25分 MC: [小山千春](#)

ゲスト: [溝口勝](#) 教授

番組D: 近藤菜穂子

13:05	<p style="text-align: center;"><TM～オープニング> 進行: 小山千春</p> <p>田無駅から徒歩 10 分も掛からないところに 30 ヘクタール以上の耕地や森林が広がる東大生態調和農学機構。ここでは食料生産の効率化だけでなく、地球環境を改善し私たち人類の生存を持続させるための研究が行われています。毎月第 2 火曜日のこの時間は、先端研究・教育の施設で、かつ一般開放もされている</p> <p>この機構について、現場の先生方や職員の皆さんが登場してお話をさせていただきます。22 回目の今回は、ゲストに溝口勝 教授をお招きしています。溝口先生、よろしくお願ひします！</p>
	<p><ゲストトーク・パート1></p> <p>・溝口先生の自己紹介をお願いいたします。 (これまでの経歴について、ご出身、大学で専攻した分野、職業の履歴等) 出身は栃木県大田原市。那須野が原の水田地帯です。最近では3月末の雪崩事故で有名になってしまった大田原高校 OB です。同級生が新校長になったので3週間前の創立記念日には年休をとって元気づけてきました。</p> <p>大学では陸上競技をやっていました。東大陸上部の黄金期で、私はなんと！1年から4年間、関東インカレの1部校選手として過ごしました。3年生からは農学部農業工学科に進学しましたが、農学部卒業というより陸上部卒業と言った方がよいですね。4年生の5月の関東インカレの十種競技の走り高跳びで失敗して日本選手権出場の切符を手になかったのを機に大学院に進学しました。</p> <p>http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/essay/170131.pdf</p> <p>大学院では農業土木学、その中で最も基礎的な土壌物理学の研究室に入りました。とにかく学部時代の遅れを取り戻そうと、とてもまじめに修士研究に取り組みました。どうせやるなら、誰もやらないことをやろうと思い、凍土の研究を始め、博士課程にも進学しました。</p> <p>そうしたら何を勘違いしたのか、当時の教授と助教授が「今度研究室に来た溝口は体力もあるしいつも元気だから三重大の助手に推薦しよう」ということになって、博士課程を中退して、若干24歳で三重大の農業土木学科の助手になってしまったんですね。</p> <p>ああ、勘違い、もいいところだ！ と思いながら三重大の助手業を始めたわけです。三重大の農業土木学科というのは、あの忠犬ハチ公の飼主の上野英三郎先生が三重県久居の出身ということで高等農林学校に日本で最初にできた学科です。</p> <p>・幼少期の環境など 那須野が原の水田農家の次男です。いま、NHK の朝ドラ「ひよっこ」の奥茨城のような環境で育ちました。三男が青年団長のアンちゃんに「生まれたときから村を出ていく運命」とかいつている回は自分の育った環境にダブって涙をぼろぼろ流して見ていました。田植えとか稲刈りの風景とかが懐かしかった。ちょうど小学校の低学年の頃に、いろんな農業機械が入ってきて興奮したのを覚えています。</p>

	<p>・溝口先生が今行っている研究。この分野に興味をもったきっかけ</p> <p>農学部が発行している広報誌「弥生61号」にも紹介しているのですが http://www.a.u-tokyo.ac.jp/pr-yayoi/61f6.pdf</p> <p>全くの偶然でした。卒業研究をやっているときに霜柱ができる瞬間の温度変化に出くわしたのがこの分野に入ったきっかけです。フーリエ解析という数学の手法を使って土壌中の熱の伝わり方を計算する全く農学部らしくないテーマでした。</p> <p>確かに、霜柱から凍土研究を始めましたが、それが縁でシベリアの永久凍土のフィールド調査に出かけるようになり、1990年代前半にインターネットにはまった関係で農業情報系の研究をやったり、結局は学問分野でも十種競技(雑種競技)をやっている感じです。</p> <p>ですから今でも、「自分の専門分野は何ですか?」、と聞かれると、なんと答えてよいかわかりません。</p> <p>https://js-soilphysics.com/downloads/pdf/130035.pdf</p>
	<p>② 音楽(リクエストエピソードなどご自由に)</p> <p>大学生1年生の時に中島みゆきをよく聴いていました。当時周りの皆は「暗い歌が好きなの?根暗なんだ?」と言っていました。僕にはその暗い詩が人生の応援歌に聞こえました。聴くだけではもったいなく思い、ギターを買って夜中によく弾き語りの練習をしていました。</p>
13:12	<p>M (リクエスト曲)</p> <p>ホームにて(中島みゆき)</p> <p>もう40年も前の曲ですが、今でも楽譜を見ずに弾き語りができます。さっき話したNHKの「ひよっこ」の話じゃないけれど、故郷の優しさを糧に都会で頑張ろうとしている自分への応援歌に聞こえます。故郷を歌った「帰省」という曲もいいですね。中島みゆきといえば悲しい振られ歌だろ?という人が多いけれど、本当のみゆきファンは、さりげない応援歌が好きなんだろうと思います。「ファイト!」とか「誕生」とか。</p>
13:15	<p><ゲストトーク・パート2></p> <p>(以下詳しく現在溝口先生が行っている活動や研究に関しましてお書きください。)</p> <p>2011年3月11日を機に、私の活動は「福島の復興」に大きく傾きました。 http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/edrp/fukushima/media/150831mizo.pdf http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/edrp/fukushima/fsoil/columbus1403.pdf</p> <p>国家政策として推進していた原発が東京に電力を供給していたのに、その事故で強制的に追われる人々がいる。優しい故郷があるからこそ東京で頑張っている人は一体どうなってしまうんだろう?栃木の大田原が福島県に近いということもあり、とても他人事とは思えませんでした。</p> <p>農業土木学・土壌物理学を専門家として、できることは何だろうか、福島の復興に貢献するのが使命だと思ったのです。そんなわけで2011年の6月から平日は大学教授、土日は認定NPO法人ふくしま再生の会の副理事長として、ほぼ毎週末、福島県飯舘村に通っています。 http://www.fukushima-saisei.jp/report/20170428/1887/</p> <p>最初は、農地除染の問題を解決するための現地実験をしていましたが、避難指示が解除された今は、農業再生や帰村した方々の生きがい農業などの問題に取り組んでいます。</p>

	<p>(このあたりの話は、下記から聞きたい話を選んで直接私に尋ねてください) http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/edrp/fukushima/media.html</p> <p>・農学機構についてご自身が伝えたい事はどんな事でしょうか? これから挑戦したいことや、今後の展望を教えてください。</p> <p>東京のど真ん中に農場があることは大変意味があることです。これからの農業は IoT や AI を利用した新しい方式に変わろうとしています。近所に住む子供たちに新しい農業の芽を感じてもらえるようなサービスに挑戦したいと思います。</p> <p>ちなみに、私は「Dr.ドロえもん」先生として日本の各地の小学校で土の実験教室もやっています。</p> <p>http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/doroemon.html</p> <p>新しい IoT 農業は日本経済をリードする可能性を持っていることをPRする一方で、農業には都会人には理解できないかも知れない精神的な意味での故郷を守る役目もあることも伝えられたら良いな、と思っています。</p> <p>・ご自身のご趣味やお仕事以外でされている活動について</p> <p>専ら、福島復興の活動です。(ほとんど仕事ですね) 強いて仕事っぽくない活動といえば、東大応援部の応援です。野球部ではありません。自分ではなく他人のために頑張れる姿が好きなので、東京で会合があって福島に行けずに、かつ東京六大学野球に行く時間がある週末には神宮球場に行っています。</p> <p>誰でも 500 円で応援席に入れますよ。</p> <p>その他の活動としては、農学部の飲み会のメには必ず、東大応援歌「ただ一つ」を2番まで歌うようにしています。せっかく東大に在籍していながら、応援歌も歌えないようではいけないということを学生たちに言っています。</p> <p>・最後にリスナーの方々に一言、メッセージをお願いします。 (見学会などイベントの告知があればよろしくお願ひいたします。)</p> <p>マスコミの情報だけを見て、福島なんてまだ危ないんでしょ、食べ物は安全なのと心配する人もいますが、まずは自分で現地を訪問して、自分の目で現状を見てください。</p> <p>福島の食べ物はとっても美味しいですよ。特に夏は。毎週違う種類の桃が格安の値段で食べられます。円盤餃子も美味しい。僕は週末福島の帰りに美味しいものを食べ過ぎて、最近太り気味です。</p> <p>福島駅に来てくれさえすれば、NPO 法人ふくしま再生の会のメンバーが飯舘村を案内します。詳しくは、「ふくしま再生の会」で検索してください。</p> <p>http://www.fukushima-saisei.jp/</p> <p>溝口先生、ありがとうございました！</p>
	<p><エンディング> 『食・農・森』(食べる・作る・育む)～東大生態調和農学機構から 今回は溝口勝 教授をお招きしてお送りいたしました。</p>
13:25	END

(※終了時間分はあくまでも目安となりますので1、2分過ぎてしまっても構成上問題ありません。)